

生態工学会

2009 年度第 2 回 理事会資料

2009 年 10 月 15 日 (木)

東京文化会館

2009 年度生態工学会 第 2 回理事会

【総務委員会 中間活動報告】

(1) 会員数・賛助会員数

会員数：2009 年 4 月 1 日～2009 年 9 月末現在

正会員 354 名（3 名増）、学生会員 26 名（1 名減）

合計 380 名

賛助会員数：13 社（18 口）、（2 社、4 口減）

会費納入状況：149 人 / 220 人（約 68%）

会社名	口数	会社名	口数
耐圧硝子工業 株式会社	1	清水建設 株式会社	1
ダイキン工業 株式会社	2	株式会社 フジタ	1
三菱重工業 株式会社	1	日揮 株式会社	3
ホテイ産業研究所	1	財団法人 環境科学技術研究所	1
株式会社 サイエントック	2	ヤンマー株式会社	2
富士ゼロックスクロスワークス 株式会社	1	宇宙システム開発 株式会社	1
岩崎電気 株式会社	1		

(2) 役員・委員の役職引き受けについて

回答率：2009 年 10 月 14 日 16:00 時点

役員・委員該当者 99 人中、65 人の回答。回答率 65%。無回答は 32 名。

特記事項：①山中保博様より、理事辞退の連絡あり。

②沼田信正様より、理事辞退の連絡あり。

③大桃洋一郎様より、評議員を 1 期のみ引受けるとの連絡あり。

④斎藤隆雄様より、理事のみ引受。広報委員会委員は辞退との連絡あり。

⑤庶務理事 総務担当、庶務理事 企画担当は担当者未定。

【編集委員会 中間活動報告】

2009 年度編集委員会活動報告(10 月期)

1. 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「Eco-Engineering」21 巻 2 号～21 巻 3 号(2009 年 4 月、7 月発刊)を発行した(内容:原著論文6、総合論文1、ニュース・企画・報告1、お知らせ、投稿規程、総ページ83)。現在準備中の 21 巻 4 号では、原著論文3報を掲載予定。

2009 年 9 月 30 日時点での査読中の論文は、原著論文4報のみである。

また、21 巻 3 号までを J-STAGE 上の電子ジャーナルとして公開した。

2009 年度 Eco-Engineering 掲載論文一覧

種類	第 21 巻			第 22 巻
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	3	3		
短報				
総合論文	1			
解説・資料				
受賞記念寄稿				
ニュース・企画・報告		1		

2. 印刷業者変更の結果について

7 月発行の第 21 巻 3 号より、印刷業者を西村謄写堂に変更した。出来栄はこれまでとほとんど変わらない。この号に限って言えば、ページ単価の出版費 4 割減を実現した。投稿料・別刷料に対する収支は若干のマイナスであるが、論文がコンスタントに入ってくれば、支出と収入が同じくらいとなると予想される。

3. JST 電子アーカイブ事業について

JST では、国内の特に重要な学術雑誌について過去の紙媒体の論文に遡って創刊号から電子化する事業を行ってきた。今年度は最終年度だったが、募集〆切が間近に迫っていたため、会長、副会長の承認を得て応募したところ、採択されるに至った。「Eco-Engineering」誌以前の「CELESS Journal」について創刊号から無償で電子化され、J-STAGE 上で閲覧可能となる。現在電子化に向けての作業を行なっている。

なお、本事業で電子化された論文については無償公開が原則となっているため、「Eco-Engineering」誌の電子ジャーナルとは違い、パスワード保護がかからないことをご了承願いたい。

4. 学会誌の日本語表記変更について(要審議事項)

当学会は、その名称にも示されているとおり、「生態工学」というキーワードを重視している。編集委員会ではこの語の重要性を鑑みて、学会誌「Eco-Engineering」の日本語表記を「生態工学」とすることについて議論を重ねてきた。その結果、下記のような結論に至ったので、ご審議願いたい。

- (1) 学会誌の日本語表記を「生態工学」とする。英語表記は従来どおり「Eco-Engineering」を用いる。
- (2) 日本語表記の変更は次巻第 1 号(2010 年 1 月発行)からとする。
- (3) 表紙は現在のものを継承する。

(4) 日本語表記の変更に伴い、投稿規程を下記の通りに改訂する。

a. 前書き 1 行目の改訂

[現行]

会誌「Eco-Engineering」は生態工学会が年4回発行する機関紙で…

[改訂案]

会誌「生態工学」(英文名: Eco-Engineering)は生態工学会が年4回発行する機関紙で…

b. 他誌における引用ルールを定めるため、投稿規程(和文)に以下の条項を加える。

4. 掲載論文・記事の引用

4-1 学会誌に掲載された論文あるいは記事を他誌で引用する場合には、会誌名称は下記のとおりとすること。

和文誌: 生態工学 英文誌: Eco-Engineering

5. その他の投稿規程の改訂について(要審議事項)

(1) 本文中の引用文献の表記方法の規定について

英文規定では論文の本文中での引用における著者名の表記方法が規定されているものの、和文規定では明確にされていなかった。そこで、下記の通り明示したい。

1) 和文の場合

3 執筆要項 3-8 20 行目

(現行) 本文中での引用は、「Nitta et al. (1967)によれば」または「といわれている(Nitta et al., 1967)のように行う。後者の場合、……………発表年の古い順に引用する。」

(変更) 本文中での引用は、「Nitta et al. (1967)によれば」または「といわれている(Nitta et al., 1967)のように行う。後者の場合、……………発表年の古い順に引用する。ただし著者名の表記は、2 名の場合「著者 1 and 著者 2」とし、3 名以上の場合「著者 1 et al.」とする。

2) 英文の場合

英文規定 (Instruction for Authors) 修正箇所

Preparation of the manuscript Section 8.

(現行) Line 1: References to work up to three authors in the text should be made in full ……→

(変更) References to work up to two authors in the text should be made in full ……

(現行) Line 3: If the number of authors exceeds three, the name of the first authors should be used followed by “et al.”→

(変更) If the number of authors exceeds two, the name of the first author should be used followed by “et al.”

(2) Web サイトの文献の引用について

情報公開の普及にともない多くの公的研究機関が統計値、研究成果、研究紹介などを速報で情報を Web サイトで公開している。このため、それらの情報を有用な文献として論文に引用することが生態工学「Eco-Engineering」でも認められる。そこで、本誌でも Web サイトの引用を認めることとし、投稿規程に反映させたい。なお、Web 文献の引用には「アドレス」だけでなく「引用月日」も併記するものとする。

例)

USDA, 1999: Wheat Production in the Upper Plains: 1998-1999. National Agricultural Statistics Database. Washington, D.C.: USDA National Agricultural Statistics Service. Available at [http:// www.nass.usda.gov](http://www.nass.usda.gov). Accessed 23 April 2000.

【表彰委員会 中間活動報告】

1. 表彰式の実施

2009年6月19日、筑波大学大学会館にて開催された2009年度総会の際に表彰式を行ない、以下の通り表彰した。さらに、学術賞と功労賞の受賞者による記念講演会を行った。また、学会賞受賞者には、会誌への寄稿を義務づけており、順次掲載される予定である。

【特別功績賞】

玉浦 裕

【生態工学会賞学術賞】

皆川秀夫 畜産を核とした畑作・稲作との資源連携による持続農業の追求

田澤信二 生物（植物・昆虫）系への光放射応用に関する研究

【生態工学会賞功労賞】

泉谷直昭

唐木 正

【論文賞】

石川芳男 微生物生態系（マイクロコズム）の理論的研究

【奨励賞】

多久俊平 Ce-Zr系酸化物を用いた二段階水分解反応によるソーラー水素生産

中根昌克 マイクロコズムの数学モデル系系の多様性と安定性

2. 2010年度学会賞候補者の募集

2010年度学会賞候補者の推薦を学会ホームページと学会誌を通じて募集中である。締め切りは10月31日の予定。

3. 2009年度学会賞受賞者の紹介

2009年度学会賞を受賞された方々の紹介記事を学会誌No.4に掲載予定である。

4. 賞状および記念品の送付

2009年次大会において講演論文賞（2件）、講演優秀論文賞（3件）、講演特別奨励賞（3件）を受賞された方々に、賞状と記念品を送付した。

【企画委員会 中間活動報告】

10月15日現在までに下記の(1)～(4)の企画を実施し、今年度内に(5)～(6)の企画を実施予定である。

(1) 2009年度生態工学会年次大会（主催）

日時：2009年6月19（金）、20日（土）

場所：筑波大学 大学会館（つくば市）

参加人数：120名（会員75名、一般45名）

特記事項：一般セッション口頭発表：4セッション 21課題

ポスターセッション講演発表：会員37課題 一般 5課題

特別企画「地球環境の未来を科学する一育む芽生え！育つ萌芽！」を実施した。

(詳細は「年次大会報告」参照)

(2) 日本地球惑星科学連合2009年大会 (合同開催)

日 時：2009年5月16日 (土) ～21日 (木)

場 所：幕張メッセ (千葉県千葉市)

主 催：日本地球惑星科学連合

特記事項：今年度はセッションを企画しなかった。

(3) 農業環境工学関連学会2009年合同大会 (合同開催)

日 時：2009年9月15日 (火) ～18日 (金)

場 所：東京大学 駒場 I キャンパス

参加学会：日本農業気象学会, 生態工学会, 農業機械学会, 農業施設学会

特記事項：オーガナイズドセッション「水産における物質循環と複合養殖」を企画し、

下記の講演を行った (オーガナイザー：遠藤雅人・増田篤稔)。

- ① 養魚廃棄物を用いた餌料生物培養の試み 遠藤雅人、竹内俊郎(東京海洋大学)
- ② 排水再利用型ワムシ培養システムの開発 小林孝幸(荏原実業株)、長瀬俊哉(バイオジェニック株)、竹内俊郎(東京海洋大学)
- ③ 微細藻類培養に関するガス動態 増田篤稔(ヤンマー株)、村上克介(三重大学)
- ④ サツマイモ水上栽培とティラピア養殖を組み合わせた複合生産システムの開発 北宅善昭、平井宏昭、サイフルイスラム(大阪府大)
- ⑤ 閉鎖循環式での複合養殖の試み 菊池弘太郎、本田晴朗(電力中央研究所)

(4) 第53回宇宙科学技術連合講演会 (共催)

日 時：平成21年9月9日 (水) ～11日 (金)

場 所：京都大学吉田南キャンパス

主 催：日本航空宇宙学会

特記事項：オーガナイズドセッション「宇宙で生きる！～地球・宇宙圏での人間生存環境～」を企画し、下記の講演を行った (大西理事の資料参照)

【第53回宇宙科学技術連合講演会の状況報告】

生態工学会企画委員会委員 大西 充

(第53回宇科連生態工学会連携企画オーガナイザー)

○日本航空宇宙学会(J S A S S)主催の第53回宇宙科学技術連合講演会は平成21年9月9日(水)～11日(金)に京都大学吉田南構内にて開催された。

○特別講演3件をはじめ、10分野の一般セッション、27のオーガナイズドセッション、学生セッションで、約570件の講演があった。

○第48回～52回宇科連に引き続き、北宅委員長、大西委員の企画による「宇宙で生きる！～地球・宇宙圏での人間生存環境～」と題するオーガナイズドセッションで下記の講演をしていただいた。

*システム技術

「JAXAにおける次期有人ミッション用ECLSシステムの検討状況」、	立原悟(JAXA)
「閉鎖型生態系実験施設統合運用時の物質循環の概要」、	多胡靖宏(IES)
「月面拠点のための生命維持システム技術インテグレーションの検討」、	宮嶋宏行(女学館大)
「物質循環型生命維持システムの制御方法の検討」、	中根昌克(日大)
「インフレータブル構造による生態維持空間構築と宇宙実証実験」、	岸本直子(JAXA)

*コンポーネント技術

「有人宇宙用 水再生システムの構築に向けた取組み(その2)」、	本馬敦子(MHI)
「有人宇宙用 空気再生システムの構築に向けた取組み」、	村瀬浩史(MHI)
「二酸化炭素還元反応を用いた空気再生技術」、	桜井誠人(JAXA)
「活性炭表面を被覆した酸化チタン多孔性薄膜による空気浄化」、	白石文秀(九大)
「1kPa酸素分圧環境での種子の発芽に関する研究」、	橋本博文(JAXA)

*将来構想

「火星を想定した宇宙農業におけるラン藻の活用」、	新井真由美(科学未来館)
「閉鎖型生態系実験施設における物質循環システムを用いた植物栽培」、	新井竜司(IES)
「長期宇宙滞在に備える低G I 食材を用いた低G L宇宙食献立に関する研究」、	片山直美(名古屋女子大)
「蚕の蛹ならびに動物性繊維である絹糸と植物性繊維である木綿糸の宇宙食としての利用」	片山直美(名古屋女子大)
「閉鎖居住実験における居住者への食料供給」、	小松原修(IES)

○新しい方のご講演があり、また30人弱の聴講者があり、今までで一番活況があったと思う。

(5) 生態工学定例シンポジウム (主催)

日 時：平成21年11月6日(金) 10:00～16:30 情報交換会 16:30～18:30 (農学部食堂)

場 所：東京大学 弥生講堂一条ホール

特記事項： 下記プログラムにて実施する予定

- ① 閉鎖型生態系実験施設を用いた植物栽培と循環技術の利用 新井竜司(環境科学技術研究所)
- ② 閉鎖居住実験における食品の自給 小松原修(環境科学技術研究所)
- ③ 宇宙農業と植物の低圧耐性 橋本博文(独立行政法人 宇宙航空研究開発機構)

- ④ バイオ光化学電池を用いた太陽光による物質・エネルギー循環
金子正夫((株)バイオフォトケモニクス研究所取締役所長、茨城大学名誉教授)
- ⑤ 植物工場の新しい可能性について 大山敏雄((株)野菜工房 代表取締役社長)
- ⑥ 緑の革命から青の革命へ「日本初・閉鎖循環式屋内型エビ生産システム」
野原節雄((株)アイ・エム・ティー専務取締役)

(6) 定例研究会

理事会終了後に、下記のように実施する予定

- ・ 第1回 (開催済み)
テーマ「根圏細菌を利用したバイオ水素発酵の可能性」
日時：2009年5月29日
場所：東京文化会館
講師：土肥 哲哉先生 (東京大学)
- ・ 第2回
テーマ「ヤンマー選果システム開発の事例紹介」
日時：2009年10月15日
場所：東京文化会館
講師：山田 久也先生 (ヤンマーグリーンシステム(株))
- ・ 第3回
テーマ「未定」
日時：未定
場所：未定
講師：船田 良先生 (東京農工大学)

【2009年生態工学会年次大会の報告】

2009年次大会実行委員会

1. 大会報告

期日：2009年6月19日(金)～6月20日(土)
会場：筑波大学 大学会館 (茨城県つくば市天王台1-1-1)
共催：筑波大学大学院生命環境科学研究科、筑波大学農林技術センター、有人宇宙システム株式会社
協賛：(社)照明学会、植物工場普及振興会、日本宇宙生物科学会、(社)日本航空宇宙学会、(社)日本水産学会、日本生物環境工学会、日本農業気象学会、農業機械学会、農業施設学会、農業情報学会、(社)農業電化協会、日本雨水資源化システム学会、(財)未来工学研究所
参加人数：120名(会員75名、一般45名)
研究発表：口頭発表：4セッション 21件、ポスター発表：37件 一般 5件
特別企画：「地球環境の未来を科学する一育む芽生え！育つ萌芽！」(展示、映像、見学)
懇親会：大学会館 レストラン「プラザ」

2. 会計報告

収入

単位：円

参加費	521,400	
広告費	110,250	5社（岩崎電気㈱、東京電力㈱、鹿島建設㈱、植物工場普及振興会、マイクロアルジェ㈱）
小計	631,650	

支出

論文集費	150,885	封入作業費含む
懇親会費	263,700	慰労会費含む
弁当費	60,000	6月20日
アルバイト代	72,000	8,000円/人×9名
雑費	4,190	通信費
	33,360	物品費
	210	振込手数料
小計	584,345	

差し引き 47,305

3. 所感

本大会では、富田-横谷大会委員長の発案のもと、学会活動を若い世代に知ってもらうことをコンセプトに、研究発表への参加、展示や映像による紹介をメインとした特別企画を実施した。その結果、一般参加45名を含む120名と多くの方々に参加頂き、盛況な大会となった。

また、筑波大学大学院生命環境科学研究科に共催いただいたことから、大会会館内の多くの会場を無料にて使用することができた。そのため、会場全体が広がってしまい、移動がやや大変になった面はあるが、参加した方々はゆったりとできたのではないかと考える。

大会では、中高生を含む一般の方々にも見ていただけるように、ポスターセッションを多く設定したため、ポスターセッションに変更して頂くこととなった。協力を頂いた先生方には御礼を申し上げる。また、中高生を含む一般の方々に研究発表の形で大会に参加いただくことは、当学会では初めての試みであり、多くの方々の協力によりトラブルもなく成功裏に終わることができた。このような学会活動を一般に広報していく活動は重要であるが、参加者の募集や運営等については検討すべき事項も多く、今後については別途議論していく場が必要と考える。

収支面については、一般の参加者は無料としたこと、また出展費・書籍販売収入などがなかったことから、昨年比べて減収となったものの、ほぼ均衡した収支となった。企画委員会・実行委員会・会員の皆さん及び協賛学会・団体、メーカー様（広告）などの協力のおかげと感謝申し上げる次第である。

4. 実行委員会（敬称略）

大会委員長・実行委員長 富田-横谷香織（筑波大学）

実行委員 船田 良（東京農工大学）、渡邊博之（玉川大学）、橋本博文（JAXA）、
新井真由美（日本科学未来館）、遠藤良輔（大阪府立大学）、
小島洋志（新菱冷熱工業㈱）、寺添 斉（電力中央研究所）

2009年10月15日
2009年定例シンポジウム実行委員会

2009年生態工学・定例シンポジウムについて

1. 主 催：生態工学会
2. 協 賛：(社)照明学会、植物工場普及振興会、日本雨水水資源化システム学会、日本宇宙生物科学会、(社)日本航空宇宙学会、(社)日本水産学会、日本生物環境工学会、日本農業気象学会、農業機械学会、農業施設学会、農業情報学会、(社)農業電化協会、(財)未来工学研究所
3. 広 告：岩崎電気様
4. 開催日程・会場
開催日：2009年11月6日（金）
会 場：東京大学 弥生講堂・一条ホール
シンポジウムテーマ：「エネルギー・資源循環利用と食物生産工場」
情報交換会：東京大学農学部生協食堂
5. 参加費
シンポジウム：会員 3,000 円，学生会員 1,500 円，一般 4,000 円，一般学生 2,000 円
情報交換会：3,500 円
6. 申し込み・お問い合わせ先
実行委員会事務局：電力中央研究所環境ソリューションセンター 寺添 斉
TEL 070-6568-9767 FAX 04-7182-7922
E-mail terazoe@criepi.denken.or.jp
7. プログラム：

10:00～10:10	開会挨拶	生態工学会 会長 大政謙次（東京大学）
10:10～10:40	閉鎖型生態系実験施設を用いた植物栽培と循環技術の利用	新井竜司（環境科学技術研究所）
10:40～11:10	閉鎖居住実験における食品の自給	小松原修（環境科学技術研究所）
11:10～11:50	宇宙農業と植物の低圧耐性	橋本博文(独立行政法人 宇宙航空研究開発機構)
11:50～13:00	昼 食（1時間10分）	
13:00～14:00	バイオ光化学電池を用いた太陽光による物質・エネルギー循環	金子正夫（株）バイオフィトケモニクス研究所取締役所長、茨城大学名誉教授
14:00～15:00	植物工場の新しい可能性について	大山敏雄（株）野菜工房 代表取締役社長
15:00～15:20	休 憩（20分）	
15:20～16:20	緑の革命から青の革命へ「日本初・閉鎖循環式屋内型エビ生産システム」	野原節雄（株）アイ・エム・ティー専務取締役
16:20～16:30	閉会挨拶	実行委員長 北宅善昭（企画委員会委員長・大阪府大）
16:30～18:30	情報交換会	

以上

2010生態工学会年次大会について

2010生態工学会年次大会を下記の要領で開催すべく準備を進めております。

1. 日時：2010年5月14日(金)～15日(土)
2. 会場：沖縄県農業研究センター（予定）
〒901-0336 沖縄県糸満市真壁 820



※那覇市内から会場まで距離があり、公共機関のアクセスがよくありません。糸満市内のホテルのご利用をお勧めいたします。なお、添付資料のように学会パックの準備を行っております。

3. 行事予定

一般研究発表（口頭発表、ポスターセッション）、オーガナイズドセッション、一般公開講演会、総会、表彰式、懇親会、役員会、その他委員会

4. 大会参加費・懇親会費

	大会参加費		懇親会	弁当代※
	事前申込	当日払い		
会員	¥5,000	¥6,000	¥5,000	1日につき 600円
非会員	¥6,000	¥7,000	¥6,000	
学生会員	¥2,000	¥2,500	¥2,500	
非会員学生	¥2,500	¥3,000	¥3,000	

※要予約：会場周辺に食堂はありません。

5. 締め切り一覧：

内容	期日
オーガナイズドセッション企画申込み	2010年1月15日
オーガナイズドセッション発表申込み	2010年2月19日
一般発表セッション申込み	2010年2月19日
発表論文提出	2010年4月2日
事前参加費振込み	2010年4月30日

以上

国内航空券・宿泊・その他のご案内

- ◆日本旅行沖縄では「生態工学会2009年度大会」にご出席の皆様にお得な(航空券+宿泊)セットのホテルパックをご案内させていただきます。尚、お申込みは1名様より受付可能です。また宿泊のみのお申し込みも可能です。
- ◆現時点では2010年航空運賃の設定が未確定のためセット料金をご案内出来ませんのでご容赦ください(2010年2月設定予定)

その他の手配

交通機関の手配

* 航空券以外にもお得なレンタカープランを設定するなど沖縄のニーズに合わせてご案内させていただきます。

送迎・輸送の手配

* 必要に応じて那覇空港より会場、及び各宿泊ホテルや那覇市内から会場までのシャトルバス等を手配・運行致します。

大会当日のご案内

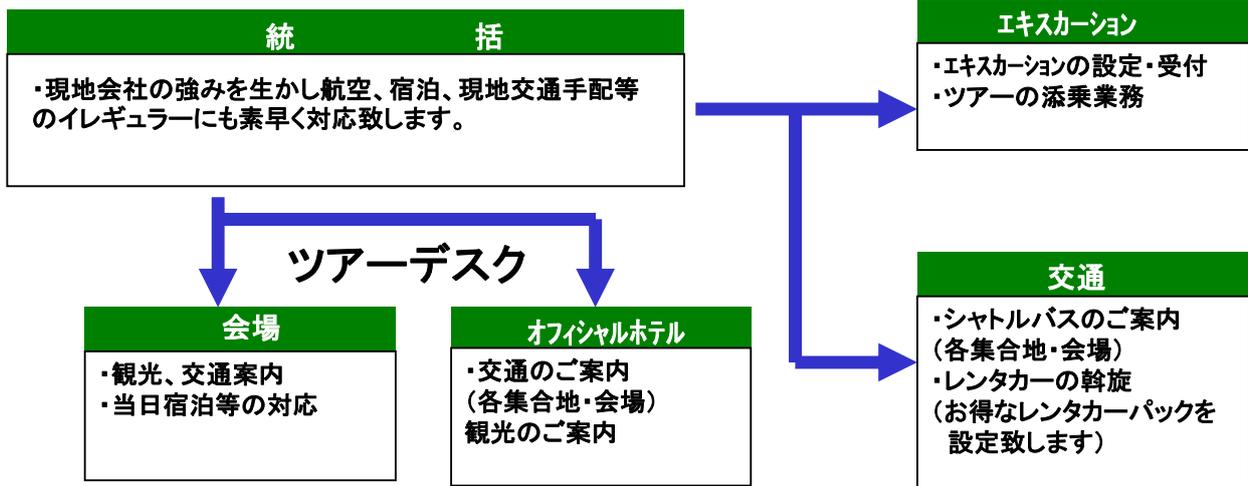
* 大会開催期間中、会場内にトラベル・インフォメーションデスクを設置させていただきます。
* また必要に応じてオフィシャルホテル内にインフォメーションデスクを設置致します。

0

大会期間中の体制について

大会期間中のスタッフサービス

※会場要員と連携をとりながら業務の遂行にあたります。



- ※大会会場やオフィシャルホテルに必要な応じツアーデスクを設置しスタッフを派遣致します。
- ※テクニカルツアーやオプションツアーの案内・添乗のスタッフを派遣致します。
- ※必要に応じてシャトルバスの運行管理・各集合地(会場)に案内スタッフを配置致します。

1

宿泊予定施設

<糸満市・那覇市内>

お一人様あたり(消費税込)

ランク	ホテル名	宿泊可能人数			仕入室数		宿泊料金(1泊朝食)		最寄りの駅からのアクセス(徒歩)
		5/13(木)	5/14(金)	5/15(土)	1名1室利用	2名1室利用	1名1室利用	2名1室利用	
A	サザンビーチホテル&リゾート	30~50名	30~50名	30~50名	30		13,000	8,500	糸満市 那覇空港より車で20分 会場まで車で10分
B	ホテルパームロイヤルNAHA	30名	30名	20名	20	5	7,500	6,500	モノレール牧志駅より5分 国際通り中心
	ホテルサン沖縄	20名	20名	20名	10	5	8,500	6,000	モノレール県庁前駅より1分 国際通りまで徒歩5分
	リッチモンドホテル那覇久茂地	30名	30名	20名	30		7,500		モノレール美栄橋駅より4分 国際通りまで徒歩5分
C	コンフォートホテル県庁前駅	30名	30名	20名	30		6,500		モノレール県庁前駅より3分 国際通りまで徒歩4分

参加者の人数に応じて増室・ホテルの追加設定が可能です。

サザンビーチホテル&リゾート



ホテルサン沖縄



ホテルパームロイヤルNAHA



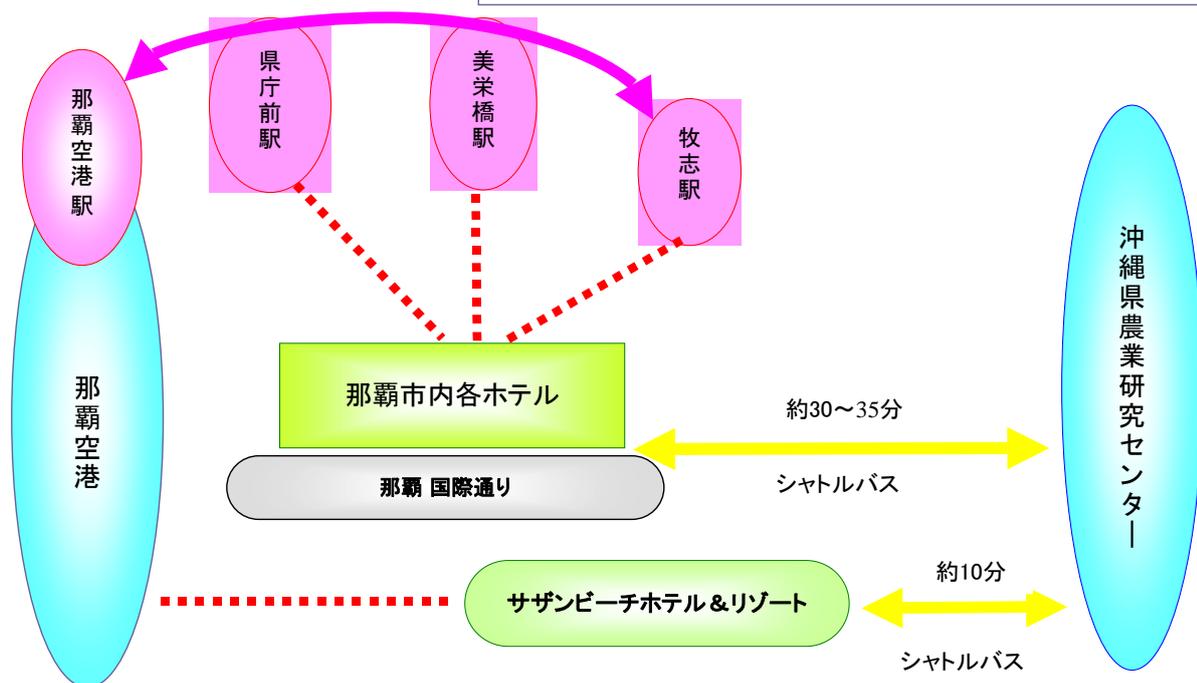
リッチモンドホテル那覇



シャトルバスの手配・運行管理

沖縄都市モノレール

モノレール時刻表: <http://www.yui-rail.co.jp/howto/table1.shtml>



【広報委員会 中間活動報告】

2009 年度 活動報告

- ・ SEE Quick 配信（メール配信）の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、速やかな配信業務が成し遂げられ現在（10/8）までに 188 回情報提供を行った。一方、情報配信を希望しない会員に対してはその旨迅速に対応した。今後も円滑な SEE Quick の配信業務を行うとともに、問題点などを検証し改善に努める。

- ・ HP の内容の更新

生態工学会第 5 期役員名簿に基づき、会長挨拶などの情報を早急に更新する。